

BPMに時間の概念を

E. Scott Menter, VP Business Solutions
BP Logix

November 2010

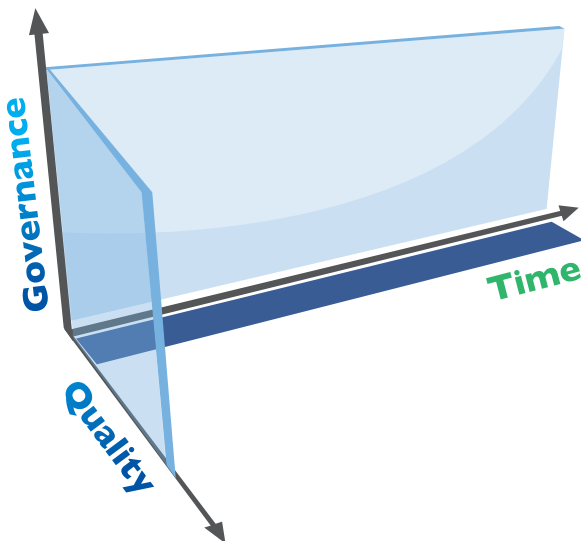


要旨

ビジネスプロセスの計画・監督・改善において、「時間」は非常に重要な要素です。しかし、従来のビジネスプロセスマネジメント（BPM）ソリューションは、質や統制といったその他の要素に焦点をあててきました。「時間」はそこに追加されるべき不可欠な側面です。ビジネスユーザのプロセスのコントロールを改善し、プロセスの初期段階で発生した変更がその後のプロセス段階にどう影響するかを予測することが可能になります。予測可能なBPMもしくはpBPMは、プロセスへのより一層の洞察を組織に提供し、遅延の可能性をできるだけ早い段階で通知します。迅速な通知が迅速な対応を可能にし、対処方法の選択肢を増やし、結果としてより効果的かつ効率的なプロセスの実行が実現します。時間軸を追加することは、早い段階での予測を可能にし、プロセス管理の質や統制そのものの向上につながるのです。

BPMを導入する推進力（ドライバー）

BPMの導入は、これまで2つの要件から推し進められてきました。より質の高い結果を実現するプロセスの改善と、財務・プライバシー・法規制などを課題に掲げる場所における適切なコントロールの保証です。一般的に、これら2つのゴールをBPMの「質」と「統制」の側面と言及します。



組織にとってコスト削減はゴールではあるものの、BPMのROIの算出は難しく、予測されるコスト削減のみではBPMソリューションの導入に踏み切るには不十分とされることがあります。実際のコスト削減は、数字だけでなく、質の向上（紙の書類を扱う頻度の低下、配送コストの削減、時間の節約）もしくは改善された統制（リスクの軽減、ノンコンプライアンスのハード/ソフトのコスト排除）で実感されるケースが多くあります。

また組織は、頻繁に実行されるプロセスや所要時間が重視されるプロセスの実行時間の短縮も課題と捉えています。プロセスオーナーは、オートメーションの

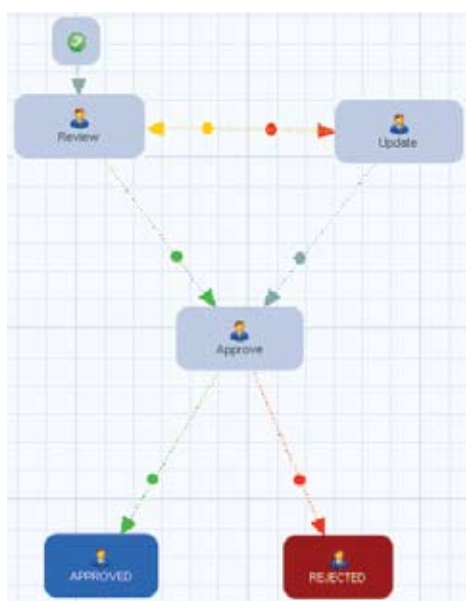
メリットとして時間の効率化を求めます。比較的初期

の頃のBPMソリューションですら、紙やFedExでの

配送などをオンラインフォームとEメールに置き換えるだけでプロセスの効率化を改善してきました。

従来のプロセスモデリング

ビジネスアナリストにプロセスを説明してほしいと頼んだ場合、何かしらのフローチャートを提出してきます。基本的なフローチャートには、いくつもの図形や矢印が並んでいます。四角や台形などの図形はアクションや決断を表し、矢印はその先にあるアクションや決断への流れを描いています。プロセスの各ステップにおいて、「この後どうなるか」という質問に答えることで設計されていきます。



このモデリングのテクニックが便利であることは、その人気の高さが物語っています。BPM導入の理由となる課題への効果も発揮します。プロセスの質は、フローチャートのような理解可能で決定論的なモデルを持つことで改善されるのです。プロセス管理は、ワークフロー内の適切なタイミングで承認のステップやレビューのサブステップを保証することで実現します。

しかし、頻繁に活用されているフローチャートには、プロセスオーナーにとって重要な要素が欠けています。マネージャーは、モデルを使うことで「このタスクが完了するのはいつか」や「このプロセス全体が完了するのはいつか」といった質問への回答を得られるべきです。単純なオートメーションで実現するプロセス全体の加速化以上のものが求められています。マネージャーは、コストを年度内予算に収めること、また個別予算も把握する必要があります。年度末に増減する可能性

があるコストはどれのか、削減できる候補はどれなのか。所要時間を考える際には、こういった細かいレベルでの事実確認が非常に重要です。

Process Timeline™

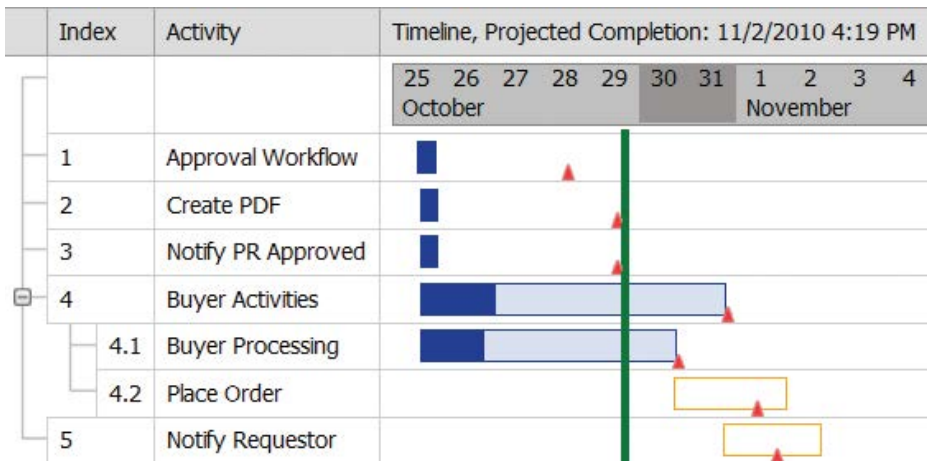
機能

BP Logixは、プロセスにかかる実行時間を計り、予測するために、Process Timelineを開発しました。Process Timelineは、組織がBP Director内に、強力で実行可能なプロセスモデルを構築することを可能にします。ビジネスユーザは、プロセスに新たなステップを追加する度に2つの質問に答えることでProcess Timelinesを設計していきます。

- ステップを開始する前に完了させておくことは何か
- このステップの遂行にかかる時間はどれくらいか

私たちはこれらを、依存性と持続性の質問と呼んでいます。各アクティビティは、それが始まる条件を満たした時点で開始されます。結果として、価値ある機能をいくつも備えたソリューションが実現しました。

1. モデリングの簡易化：プロジェクトオーナーは、各アクティビティ・所要時間をリストし、そのアクティビティを開始する前に必要となるアクティビティの上にドラッグ&ドロップします。
2. 可能な限り多くのアクティビティが同時に進行するため、平行する行動を明確に設定する必要がありません。
3. プロセスのステータスが一目でわかります。
4. プロセスがローンチされた時を含むいかなるタイミングでも、システムが期日までに完了されないアクティビティを判断します。
5. システムはプロセスが実行される都度、実際の所要時間と予測された所要時間をともに記録し、その内容に応じて予測時間を調整します。



メリット

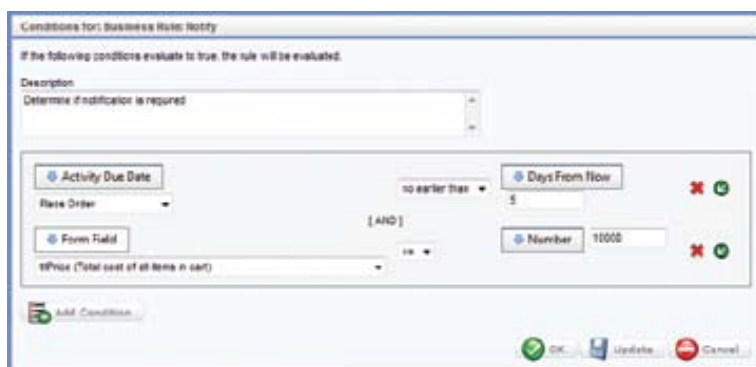
Process Timelineが持つ、簡易化されダイナミックな性質によって、BP DirectorはBPMソリューションに様々なメリットを提供します。

1. 評価するまでの時間：簡易化されたモデルは、これまで以上にビジネスが発見されてから自動化されるまでの時間を短縮します。
2. 先を見越したレスポンス：遅延が発生する可能性をもっとも早いタイミングで通知（まだ始まっていないタスクに関して）することは、将来起こりうる問題やそれに依拠して変更や調整することを可能にし、それらの問題を乗り越えることを可能にします。
3. 改善されたコンプライアンス：BP Directorには、すべての承認・入力されたデータ・全プロセスの全ステップが保管されます。それらの情報は、社内外の監査役や規制者、リスク管理の担当者などに提供することができます。
4. 迅速な変化：ビジネスプロセスは、めまぐるしく変わる要件に迅速に対応する必要があります。BP Directorは、シンプルな直感的で使えるインタフェースを採用しており、プログラミングのスキルを必要としません。その結果として、BP Directorはビジネスが求めるスピードによってプロセスを変更することを可能にしています。

組み合わせて使うこと

時間軸を反映したProcess Timelineは、従来のフローチャート主導のワークフローオートメーションにない様々なメリットを提供しますが、フローチャートベースのモデルが便利なこともあります。そのため、BP LogixはBP Directorで両方のモデルを統合しています。ひとつのProcess Timelineのアクティビティに、

従来のワークフローが丸ごと含まれ、いくつかのワークフローを合わせてより複雑かつ管理しやすいプロセスを実現します。



今がまさにその時

ビジネスプロセスマネージメントに「時間」の概念を導入することは、動物を動物園に入れるようなものです。そこにあるものだと当然思い込んでしまう、それくらいになくってはならない要素だからです。にも関わらず、ビジネスプロセスマネージメントにおける「時間」という概念の重要性を認識したのはBP Logixが初めてです。BP Logixは、Process Timelineのテクノロジーを提供している唯一の企業です。

あなたの組織にとって、タイムライン・柔軟性・予測が重要なのであれば、BP Directorをまず試してみてください。

詳しくはBP Logix製品プロモーションサイトwww.bplogix.jp
BPMブログwww.bplogix.jp/blog/bpmをご覧ください。





著者：BP Logix, Inc.

E. Scott Menter

United States

410 S. Melrose Drive Suite 100

Vista, CA 92081

<http://www.bplogix.com>

翻訳・監修：アシストマイクロ株式会社 / BP Logix日本総販売代理店

〒164-0012 東京都中野区本町3-31-11

TEL：03(5302)2983

<http://www.bplogix.jp>

お問い合わせ先：bpl_info@assistmicro.co.jp